

第 32 回委員会 (令和 3 年 10 月 13 日開催) 及び第 33 回委員会 (令和 4 年 1 月 31 日開催) を欠席した Webb 委員について、別途、令和 4 年 3 月 3 日に WEB 会議を行い、第 3 期中長期計画期間の成果ならびに第 4 期中長期計画(案)の概要をそれぞれ説明し意見交換を行い、個別の観点を含めた総合的な観点から事後及び事前評価を行っていただいた。

Webb 委員からは、事後及び事前評価について、以下のようなコメントがあった。

(1) 事後評価

- 現中長期計画から次期計画への移行は非常に重要であり、策定した計画をレビューするための広範なプロセスが確実に行われている。
- 第 3 期中長期計画での研究を着実に進め、国際的に高い技術レベルでの成果を創出している。
- 439 件もの論文が公表されており、非常に優れている。
- 瑞浪超深地層研究所における結晶質岩を対象とした研究は、実証的な成果を創出しており、スウェーデンや他のヨーロッパ諸国での研究計画と比肩しうるものとなっている。
- 幌延深地層研究センターにおける稚内層深部(深度 500m)での研究への取り組みは、更なる技術基盤の強化につながるものであり、また将来の研究開発への展開に大きく寄与するものである。

(2) 事前評価

- 第 4 期中長期計画(案)は、主要な技術課題に対応していることから、研究テーマの設定は妥当である。
- 日本の地層処分計画の次の段階を準備する上で、年代測定技術を組み合わせた地表からの断層特性調査は非常に重要である。
- 幌延の国際共同プロジェクトは、日本の地層処分計画のみならず、国際的にも大きく貢献するものである。
- 海外機関との連携は非常に重要であり、十分に検討されたものになっている。このような連携は、地層処分の国際的な理解促進にも貢献する。
- 次世代を担う研究者の育成は、技術的な成果と同様に重要である、実際の地下での研究を含むインターンシップやメンターシップの拡充を検討してもらいたい。

以上